



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (632) 0156

新しい年を新会長とともに

みんなで楽しい集いに、どうぞ

昭和60年1月27日(日)

昭和六十年のよき年を迎え、どなた様もおめでとうございます。昨年の25周年記念大会は、百余名の出席を得て、盛大に行なうことができました。本年は更にいっそうの発展と躍進を期して、新年会を開催いたします。

例年、皆様からお持ちいただいたおりました福引は、今回は片貝会が企画して、賑やかに楽しみたいと存じます。どうぞ、同級・知人の皆様方を誘い合わせの上、ご参加下さいますよう、ご案内申しあげます。

- 一、日時 60年1年27日(日) 午後一時(正午より受付)
- 一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)

営団地下鉄「湯島」二分(千代田線)、「上野広小路」六分(銀座線)、国電「御徒町」七分

一、会費 四〇〇〇円(料理・果物・飲み物・福引)
返信は一月二十日までにお送り下さい。

新役員一覧

会長 勝又 功	副会長 相崎勇次 芝 五郎	理事 相崎尚次 大矢福次	神林徳次 佐藤量八	安達宗吾 三重堀繁蔵	小林敬司 松下利夫	青柳狂花の旅 4月14・15日	・青柳狂花の旅 4月14・15日	・26回総会(県人会館) 5月26日	ふるさと学校について	20号でこのことについて申し上げておきましたが、該当家庭の把握が困難などの為、中止しました。あしからずご了承願います。
監査 高橋四郎	黒崎孝造 大矢幸治	代表 佐藤祐一	世話人 佐藤量八 黒崎 正	母校を励ます会	予告 藤塚 悟 大塚園夫	諸我時夫 吉井信三				

ご挨拶

会長 勝又 功

会員皆様のご健勝を心からお喜び申し上げます。諸先輩が二十有余年に亘って生々発展に心血を注がれ、今日に至った東京片貝会は、私どもの糧であり、強力な支援者であって捨てはならないものであります。本会の目的は「会員相互の親睦をはかる」ことであります。これは極めて簡素な言葉であります。求めることは、広く、深いものであります。社会人として果すべき責任は、財産の多寡・地位の上下といった形式的に理解されるものではないと存じます。自立自営のもとに、円満な家庭生活を維持することが大切であり、それには健康が根源であり、又多勢の人々を知ることでもあります。幸にして私どもの出身地片貝は、伝統的に人的交流に卓越した気風を持っている地でもあります。それが様々な思考で開催されている同級会であり、東京片貝会は、この同級会を根として、年次年齢を超越し

て和合し、太い太い幹を作って行くことに意義があります。健全な枝を茂げらせ、美しい花を咲かせるのは、次の世代に託してもよいではありませんか。決して裕福とはいえない故郷を出て、「生き馬の目を抜く」喧噪の地での生活の日々に、ふと思いつくことは、良きにつけ、悪きにつけ、少年時代を育ててくれた故郷のことでもあります。それは此の時代に修得した家庭生活や教育が、現在の生活の基礎となつていからであります。故郷は忘却すべきではありません。そこで「母校を励ます会」を創設され、堅実に活動されていることは、東京片貝会と故郷を結ぶ太い絆であつて、継続することに深い意義があると思ひます。

何分にも浅学非才の身であり、唯々先輩の築かれた道にすがり、会員皆様のご御指導御支援をお願ひします。

あとをよろしく

前会長 佐藤 量八

安達前会長の後を引き継いだのは、昭和四十九年のことでした。翌五十年に第16回総会を、増上寺の大広間で二百三十名の出席を得て開催しました。それから約十一年間、無我夢中でやってきました。過ぎ去つてみ

会の動き

第25回総会 5月27日 一面参照

県人会納涼の夕 8月5日 (例年八芳園で開催されている。余興は多彩であったが、中でも湯沢の雪おろし太鼓、佐渡の鬼太鼓が好評であった。

会から相崎尚次、佐藤量八、相崎善次郎、佐藤彦一、黒崎孝造の五氏が参加した。

役員会 6月24日 秀和ビル集會室で。会長交代に伴つて、今後の運営方法を協議した。その結果総会、新年会の担当、湯河原旅行の世話役など、各役員で分担して進めることになった。十九名出席

前会長に記念品贈呈 7月14日 勝又会長と黒崎会計が、前会長宅にゆき花瓶と感謝状を、奥様に謝意を表した。

会計引継ぎ 9月20日 これまで前会長扱いの分を、黒崎会計に引継いだ。

役員会 11月25日 片貝小中学校と日時や方法について、佐藤世話人が協議した。

お願ひ 新年会の計画立案。16名出席

先の総会で、六年間そのまゝになつて来た八百円の会費を、六十年間から、まことに恐縮ですが、千円に値上げさせていただきますことになりました。どうぞご理解の上ご協力下さいますようお願い申し上げます。

めでたく25周年総会

歴史の重み、はなやかに賑やかに

5月27日・新潟県人会館で

時おり陽春の陽が射して、おだやかな日である。祭りのみこしが会場の前で、威勢よく景氣をつけている。

25周年を祝って、郷里からたくさんの方々が、続々ときてくださった。一同拍手でお迎えする。

新会長誕生

一年間の事業報告を兼ねて佐藤会長が開会を告げる。会計報告もすま、続いて、励ます会の佐藤祐一代表が、会計状況と今後の抱負を述べた。皆さんにご理解と、これからの協力を訴えて、賞成をい

ただいた。かくて、役員改選にうつる。

約十一年間、会のために尽くしてきた佐藤会長が、藍居を契機に会長を辞任することになった。

そのあとを勝又功さん(昭6)が引受けてくださった。まことに大役ご苦労様であるが、会長として申し分のない同様に、これからの舵取りをしていただくことは、まことに心強い限りである。

副会長に、新に佐藤彦一、黒崎正両氏に引受けていただいた。また婦人部の奥田佳子さんが、健康上の理由でやめられたので、武藤睦子、小野愛子さん

にお願いすることに

新会長からは自己紹介を兼ねた力強いあいさつがあった。出席の皆さんから、新会長始め役員全員に盛大な拍手があった。

お祝いのことば

来賓の皆さんより、数々のお祝いのことばをいただいた。郷里の近況、発展ぶりが思われてなつかしさがこみあげてくる。話の概様は



後記の通り
星野市長、浄照寺様の祝電を披露して、懇親会にうつる。

吉田協議会長

いつも励ます会からお世話になり、感謝しています。魚沼線が廃止になった路線に、バイパスを通すよう努力しています。

本田農協組合長

農協の新役員がきまり、組織が一新された。昔に比べて労働時間は十分の一で、同じ面積を耕作できるようになった。全農家六四〇軒のうち、専業農家は三〇軒しかない。近代化時代となって、人に委任して耕作する農家も多くなるでしょう。育苗施設やカントリーエレベーターがやがてできます。

本田市議

サンヨー電気と松下電装がくることになって、町の発展に寄与するだろう。妙見に堰を作つて、開発する計画が進んでいる。秋の四尺玉は、世界で始めて片貝が作つて、片貝で揚げます。ごう期待を

関市議

昨年の選挙で四選を果しました企業誘致の為努力しています。サンヨーは四千人、松下の期日は不明だが千人の予定。今後の発展を

期待しています。

桜井中学校長

私は初代校長の息子で懐かしく思っています。片貝中に非行児はいない。学力、体力共にすぐれている。生徒会長の録音テープを通して、現況を説明された。

平野小学校教頭

百十周年の記念行事と、文部省指定校になった成果を、着々と実のあるものにしてほしい。寄贈された図書を、洋々文庫と名づけて活用させていただいております。

丸山体育協会長

体力の増強に力を入れていきます。ナイター設備を作り、片貝体育史を編さんの予定です。公園墓地を整備して、より立派にしたい。

吉原公民館、同窓会長

二役を兼ねることになりました。どうぞよろしく。郷土史研究会から一王子大権現考を発行したのでご愛読を

山村モデル施設委員長

先頃できた遊歩道や、キャンプ場を東京の皆さんにも、ぜひ利用していただきたい。

箕輪先生

私が教師になって最初の学校です。忘れることができません。私も八十歳を過ぎたが、毎年出席させていたたいです。

懇親会、盛大に

乾杯に先立って、佐藤正雄・丹治きみ・児島良子さんが、二十五

周年を祝って舞つてくださった。早く乾杯を、との声もかかった。

広井三代次顧問の乾杯で宴は開始された。このあとは、会員相互、郷里の皆様との交流で、和気あいあい。百名の出席者で、会場は溢れんばかりの盛会となった。

いつ果てることもなかった懇親は木遣りの合唱とともに、幕を閉じた。次回の再会を約しつづ。

出席者(二〇二名、敬称略)

協議会長

吉田一雄

農協組合長

本田初太郎

市議

本田善治

中学校長

関広一

小学校教頭

桜井澄雄

体育協会長

平野和善

公民館長

丸山良平

施設委員長

吉原芳郎

同窓会役員

山村理策

恩師

友田明石

新潟県人会

箕輪あね

〇明治

田中義一

〇大正

丸山フジ、丸山幸三郎

〇昭和2、9

松井平助、吉原ヤウ、広井三代次

高桑きい、佐藤正雄、渡辺左武郎

浅田兼次、吉原賢策、小野塚健次

神林徳次、水内裕治、高野朝五郎

大矢福次、佐藤量八、三重堀繁藏

相崎尚次、安達清次

山田セツ、相崎勇次、早川松太郎

松井重治、芝五郎、小野塚マツ

吉井武二、安達武、日下部政子

浅田鉄二、芋川とし、浅田喜八郎

山口三郎、丸山春、石黒佐忠太

勝又功、黒崎孝造、藤塚栄三郎

神林健次、本田松次、相崎善次郎

芝三司、佐藤彦一、山口武一郎

ノンブック
微笑(週刊誌)
祥伝社(電265-2081)

黒崎 勇(昭8卒・三の町)

中野区沼袋2-23-12
(386-6759)

プロパンガス 販売
各種燃料

山口 福次(昭13卒・町裏)

横須賀市池田町4-100
(0468-35-5629)

美しい女性を創造する
美容 本店 ユリア美容室
(電)765-9461
平和島駅前(京浜急行)
支店 ジュネ・ユリア
(電)765-3855
平和島・京浜ストア内
ユリア・青山
(電)400-6051
港区南青山6-1-6
新野百合子(昭14卒・二の町)
港区高輪2-15-31 606号
(443-0587)

何をやる—それで生涯がきまる

—基礎研究から製品まで— 佐藤祐一氏 (昭27)

母校を励ます会第三回講演会

11月17日(土)
片貝中体育館で

私達が新製品を世に出すまでには、大変な苦労があります。どんな物を作るか、それを考え出すまでの悩みがある。いろいろなヒントが浮んできたら、これを図式化する。絵にすると、案外はつきりしてくる事が多い。

検討に検討を加えて、試作品ができて、これは秘密です。他社に知られず、しかもマスコミにアピールしてもらおうことを考えるこれも大事な戦略です。

研究の国際化

これから競争は益々激しくなっていくことでしょう。同時に外国とも相互交流しあわねばなりません。特許の数は、日本は米蘭と共に、世界のトップクラスで、研究の分野でも、日本の地位は高まる一方です。私はしばしば外国へ行く機会が多くなり、外国の学者と交流することも、盛んになってきています。



当初、五年間ということも発足しました。二年経過した今、反響は予想外に広がっています。同窓会と合体して、もっと土台を大きくしたいと考えたのですがやはり私どもの初心を貫くべきだということになりました。つまりあくまでも東京片貝会が、車の心臓になつて会を運ばし、しかも片貝会員に限定せず、すべての卒業生の皆様に呼びかけていこう、というわけです。

母校を励ます会を

今後とも継続したい

全卒業生に呼びかけて

他の勉強はともかく、私はずっとの頃から理科が好きだったので先生はいつも激励してくれました。私がこの方面の研究を進めるようになったのも、母校の先生のおかげと思っています。

今後日本は益々国際化していきます。外国人の物の考え方もよく理解できるように、英語を話せるようになることが、益々必要になってきています。

当初、五年間ということも発足しました。二年経過した今、反響は予想外に広がっています。同窓会と合体して、もっと土台を大きくしたいと考えたのですがやはり私どもの初心を貫くべきだということになりました。つまりあくまでも東京片貝会が、車の心臓になつて会を運ばし、しかも片貝会員に限定せず、すべての卒業生の皆様に呼びかけていこう、というわけです。

状況を、手にとる様に説明してくれました。ただ、体育館に暗幕設備がなく、せつかくの資料が鮮明に見られなかったのが惜しまれました。

佐藤祐一さんのこと

同氏は南極観測隊に加つた和秀さんの令兄。東北大学の大学院を卒業後、東芝へ入社。東芝の研究所に所属、電池開発研究部長。この方面の研究で、電気化学協会から桐橋賞を受賞された。理学博士

家の庭木は既に冬ごもりの困いが終っていたが、寒さを感じさせない暖かい一日であった。東京から勝又会長、佐藤前会長、諸我さんが参加した。吉原同窓会長も、多忙の中を出席いただいた。PTAの皆さん、一般町民有志も多数参加して下さい。

180 武蔵野市吉祥寺東町3-22-12 (四三二二一五六〇一) 佐藤量八

会員よりお便り

吉井秀五郎 (大13)

敬称略

救世軍清瀬病院の勤務に追われいつも失礼しています。おかげ様で七十歳を越え、元気でです。皆様のお骨折には、頭が下がります。横山逸平 (大14)

幹事の皆様、ご苦労さまです。いつも感謝申し上げます。菅野リヤ (昭2)

吉原菊枝、本田チヨ、武藤睦子
○昭和10、19
小宮良夫、高橋四郎、小宮秀夫、安達保治、丸山恵次、浅田鉄夫、山田チエ、佐藤広次、山口吉五郎、佐藤フミ、大矢常吉、小野塚忠治、小野愛子、丹治きみ、黒崎和一郎、相崎ヨシ、佐藤敏雄、佐藤道雄、浅田 猛、山田利雄、小宮幸雄、星 シズ、江沢キヨ、氣田登美、西山和子、上田益美
昭和20、29
三重堀清、山岸慶昭、五十嵐貞雄、児島良子、黒崎 正、山崎由紀子、相崎達一、大塚順一、横尾ミチエ、山岸雪子、本田善一、石川春子、佐藤祐一
昭和30、32
芝 満雄、藤塚 悟、諸我時夫、吉井信三、浅田達夫



だいています。皆様のご尽力ありがとうございました。城取八重子 (昭8)

ふるさとの香りいっぱいのは会誌ありがとうございます。さよなら魚沼線の記事は胸のつまる思いです。正に心のふるさとの感があります。ごころうさま。中野みちよ (昭16)

ふるさとのニュースを、いつも懐かしく読ませていただいています。皆様のお骨折り、ありがたく感謝しています。

税務相談

お気軽にどうぞ
諸我 時夫 (昭32卒・大屋敷)
松戸市牧の原2-6枚の原団地
2-8-306
(0473-85-5719) 自宅
(03-888-4190) 事務所

各種建築・設計

本田 幸男 (昭24卒・町裏)
足立区足立2-27-6
(889-8952)

家庭電気器具販売

吉原 博 (昭17卒・二の町)
小平市花小金井南2-803
(0424-62-8808) 店
(" 63-0081) 自宅

ふるさと・は・今

芸能まつり賑やかに

7月1日
 小學校の体育館で、はじめての芸能まつりが開かれた。日頃民謡に踊りに、音楽バンドからマジックなどに精進されている方々の団体がある。それらがこの日一堂に集って、その腕のほどを披露した。

広い体育館も五百人の観衆でいっぱいになり、むんむんする夏の夜をみんなで楽しんだ。
 来年もその成果が待たれている。

四尺玉試し打ち

世界一の大花火をめざして、その試し打ちが行われた。中に砂ともみだが入れられた。その重さは四百二十一kg、実験玉は聲音と白煙を発して、青空高く上がった約三百人が息をこらしてその成果を見守っていた。7月22日市の花・スイセンを制定市になつて今年で30年を迎え、これを記念して、スイセンが市の花として制定された。公募の中から選ばれた。また記念式典で、片貝関係の左の人達が、永年勤続



で表彰された。

8月24日

鼓笛隊のパレード。相撲場の熱戦は午後から。片貝会が奉納した五人抜きも人気の的となった。東京片貝会の新会長勝又さんも、熱心に観戦していた。

全国でも珍しい屋の三尺玉が揚がる。工夫された色とりよりに見る者は皆目をのぞいた。

九時には三瓦目の三尺玉が揚がり十時には、いよいよ世界最初の四尺玉が揚がる。観衆は三万とも四万とも。町を埋め尽くした人々が見守る中、玉は筒の中で破裂してしまい、小玉が僅かに低空で光るだけで終ってしまつた。

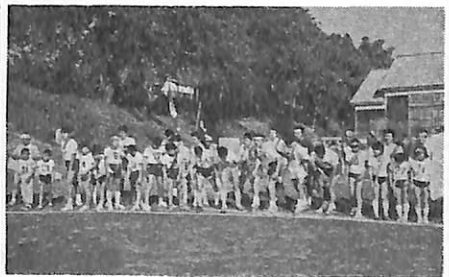
放送嬢の涙ながらの声、ことばにならない。見る者すべて声のむねみ。再度挑戦致します、の放送が夜空に悲痛にひびいた。

NHK放映

全国的に注目されている片貝祭りの実況が、朗志会(42歳)の動きを中心に、全国的に放映された。四尺玉は朗志会が奉納したものである。ご覧になった方も多かつたことであらう。9月22日町民大運動会 10月21日相模湖天となったので、中学校の体育館で実施された。

九町内に分れて、リレー(総力・八百米・小中、綱引き、大玉送り、びんつめレース、百米競走の九種目を競った。総合成績は町裏が一位、以下池津、四之町、二之町、鴻巣、一之町三之町、五之町、山屋の順であった。(写真左町中が一丸となつて美しい一日を過ごした。

サントリー文化賞 11月2日サントリー文化財団が、地域の文化向上に貢献した個人、団体に



の出品があり、終日観覧者でふるさと会館は賑わつた。
 町民駅伝大会 11月4日文化祭の最後を飾る駅伝大会は小学生から壮年チームまで、四十二チームが参加した。(写真上)小学校グラウンドを発着点として11.9kmを五名のランナーで行われた。同窓会のチームも多数参加して、沿道の町民から盛んな声援を受けた。中でも神奈川県の本田十三雄さんは、一人でこのコースを完走して、話題をさらつた。同氏は町裏出身で、奥様は鴻ノ巣の方。男子チームは、片貝中、ランナース、微マンなどの順、女子チームは、片貝中、のそのそ亀、町裏子供会が上位であった。
 柄沢栄夫氏叙勲 11月3日永年小学校校長を勤め、小千谷市の助役もされた同氏が、勲五等の榮譽に輝いた。一王千大権現考の著者。
 電話局番が8から84へ
 七月から片貝の局番が一けたになつた。市外局番は〇二五八となつたので、今までと変わらない。けれども長岡とその周辺地域は、市外局番なしで通ずることになつたから、やはり便利になつたわけ。励ます会の図書について
 二年にわたる母校に寄贈した本は、皆さん大変喜ばれています。紙面がなくて詳しい報告は次回で。



賞を贈るもの。
 本年は五団体と二名が受賞、その中へ片貝祭りが選ばれた。代表として本田善治氏が、同日大阪へ出席した。副賞の百万円で、神社の境内にゲートボール場を一面作り、祭りの時には、棧敷席にするという。
 総合文化展 11月3・4日文化展も本年で五回を迎えた。郷土史研究会の拓本、美術協会の日本画、洋画、盆裁会から各種盆裁、写真クラブ、生花・染織クラブ

あとがき

30号をお届けします。

取材や写真など、会員や郷里からいつもご協力いただいています。感謝のほかはありません。会報が会と皆様とを結ぶ絆ともなれかしと念じています。よきご迎年を。

母校を励ます会会計報告

(自昭和58.5.1
 至昭和59.11.30)

収入	¥1,167,477	支出	¥462,900
基金(延217名)	1,109,700	寄贈図書(58,59年度)	
利息	57,777	小中校へ	400,000
現在高	704,577	印刷費	31,000
内訳		領収書・趣意書・	31,000
割引債	550,007	郵券	6,900
普通預金	154,570	中学校等謝礼	25,000

基金を

いただいた方

(59年5月1日以降)

- 大正 錦織ツタ(2) 高野朝五郎(2) 安達忠次 昭和2・19
 - 山田雅子(2) 小野塚まつ(3) 山田せじ(2) 小宮幸雄(2)
 - 野中広司 中野みちよ(2) 前田よし 小川権四郎 内山キミ 山口福次 昭和20・28 小林均(2) 小川裕記子 三重堀清
- (一)内の数字は回数を示す。
 片貝 友田明石 吉原芳郎 まことにありがとうございます。厚くお礼申し上げます。敬称略